

# 自分らしく、 長岡を盛り上げる

市外から移住し、自分の経験や能力を活かして活動する「地域おこし協力隊」。市内各地で地域を盛り上げる隊員や経験者のみなさんをご紹介します。

岡地域振興戦略部 ☎39・2260



## 地域おこし協力隊とは

都市部から地方の中山間地域などに移住し、課題解決に向けて地域団体で活動しながら、定住を目指す取り組み。任期は最長3年です。平成21年の制度開始から15年が経ち、現在では全国で7,200人、市内で21人の隊員が活動しています。



## 長岡市の協力隊の特徴

### ☑ 多彩な人材が集結

「市内企業と外国人材のマッチング」や「eスポーツを活用した地域活性化」などの課題を解決するため、さまざまな知識や技術を持った人材が集まっています。



### ☑ 造形大と連携して地域課題を解決

長岡造形大学の大学院生が隊員として活動するプログラムを実施。現在は2人が活動し、若者の社会的な孤立を防ぐことを目的としたワークショップなどを行っています。



### ☑ 退任後、2人に1人が起業

直近3年間に退任した隊員のうち、75%が市内に定住。その中で起業した人は66%を超えており、全国的に見ても高い水準です。

## 現役 隊員



NaDeC構想推進コンソーシアム  
コーディネーター 辻 貴美花 さん

福岡県出身。北九州工業高等専門学校在学時から学内発ベンチャー企業に所属し、ロボット開発に取り組む。令和4年から隊員として活動。令和5年には出産を経験し、育児休業を取得。

## 子育てと任務を両立。 コミュニティづくりで 長岡に新しい風を

**多** くの人と関わりながらコミュニティづくりを携わりたい。そんな想いを抱いていた時、夫の出身地である長岡で、協力隊というぴったりの仕事に出会いました。現在はミライエ長岡を拠点に、若者の起業家精神を育むイベントの開催や、学生が企業課題の解決を目指すプロジェクトの運営などを行っています。全国の学生と関わる機会もあり、熱心な彼らから刺激を受けることも。隊員の活動は、自分の性格やキャリアにマッチしてとても楽しいですね。仕事と子育ての両立は大変ですが、時間の使い方を工夫して頑張っています。今後も、長岡に新しい風を取り込んでいけるよう、何事にも全力で取り組みたいです。

## 地域のひとと造ったワイナリー これからも人と人をつなぐ

**奈良場** ワイン製造に携わりたくて、東京で青果物の卸売りの仕事をしながら、ワインアカデミーに通いました。勤め先を探していたところ、偶然見つけたのが「栃尾地域にワイナリーを造る」というミッションの協力隊です。着任した令和2年に赤ワイン用のブドウの生産を始め、5年にワイナリーをオープンしました。**柴田** 私はデザイナーとしての独立を目指す中で、人とのつながりをつくりたいと思い協力隊になりました。ワインの生産のほか、これまでの経験を活かしてロゴやラベルも作っています。ワインの知識はほと

んどありませんでしたが、地域の人からブドウの栽培方法を教わったり、一緒に収穫したりしてとても助けられました。**奈良場** 任期を終えましたが、やりたいことは尽きません。今は地元・三島地域にもワイナリーを造ることが目標です。ワインは土壌によって味が変わります。長岡の西側と東側の山で造るワインをたくさんの人に飲み比べてほしい。そこから、人と人のつながりが生まれるとうれしいです。**柴田** 搾りかすを使ってジェラートを作るなど、お酒を飲まない人でも楽しめる加工にも挑戦したいですね。



## 隊員 経験者

WINE FARM TOCHIO  
奈良場 晃大 さん (写真左)  
柴田 和花子 さん

ワインを通じた地域活性化を目指し、栃尾地域で隊員として活動。長岡初のワイナリーを設立し、退任後もワインの生産・販売などを行う。